

授業科目名	共生科学実践演習 (2) : やんばるの森と海と人に学ぶ自然との共生	単位数	2
担当教員名	保屋野初子	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)	(保屋野初子) 環境ジャーナリストとして国内外で取材活動を行い執筆や講演などを通して環境問題のなかでも水問題(ダム開発や水汚染、水道問題など)について調査報道的な仕事とともに、編集者としても多くの出版物製作に関わった。また大学院修士課程、博士課程での研究により学位を取得。社会貢献活動としては、小規模水道を支援するNPO法人の立ち上げ・運営に関わり15年余となり、公益財団法人日本自然保護協会では理事を8年間務めた。星槎大学では共生科学概説(2)、環境社会学、水環境論のほか演習科目として沖縄県北部でのやんばる演習、運営に関わり15年余となり、公益財団法人日本自然保護協会では理事を8年間務めた。星槎大学では共生科学概説(2)、環境社会学、水環境論のほか演習科目として沖縄県北部でのやんばる演習、長野県小谷村での里山体験ゼミを担当している。		
「学位授与の方針」との関係 とくに、B、D、E、Fに強く関連している。			
授業の到達目標及びテーマ 現場を訪問する体験を通して自然と人とのかかわりを体感的に深く学ぶ。そのために事前学修では現地に関する基礎知識を得て自身の問題意識を明確にし、事後学修では現地体験に基づくディスカッションを通して問題意識を共有し、継続的に考え学び続けることにつながる。			
授業の概要 やんばる地域は亜熱帯森林とサンゴ礁の海に縁どられ、沖縄本島で最も豊かな自然が残る地域で、人々は森と海の間で両方の恵みを得て暮らしてきた。2021年に世界自然遺産に登録されたやんばるの森にはヤンバルクイナなど稀少生物が生息し、自然海岸が残るサンゴ礁の東海岸はジュゴンやウミガメのえさ場となってきた。一方、この森と海に米軍基地が隣接し、人々の生活に大きな影響を与えてきたが、さらに現在、大浦湾沖で辺野古新基地の埋立工事が進んでいる。現地を訪れ、森と海での自然観察(体感)、自然保護活動に関わる高校生ほか地元の人との交流を通し、自然と人、地域と平和(軍事基地)、日本や自身のあり方を見つめなおし「共生」を考える。			
授業計画 事前学修 ：指定の教材によるオンデマンドSC(1日相当)を自宅受講。やんばる地域の自然環境(生物多様性、世界自然遺産登録候補地)、人々の伝統的な生業と暮らし方、米軍基地と人々の生活および海への環境への影響などについて、基礎知識を得て、自分の問題意識を持ったうえで現地に赴く。 現地学修 ：2泊3日のやんばる地域におけるフィールドスタディのプログラムに最後まで参加し、自分でメモや写真などを使って記録し、事前学修での問題意識を深める。現地では、講義してくれる話者との対話や、同じ参加者どうしのディスカッションなどを積極的に行い、			

知識や問題意識の共有、コミュニケーションを図る。

事後学修：事前学修とフィールドスタディを通して学んだことや問題意識についてディスカッションし、省察と科目修得試験を受ける。

スクーリングでの学修内容

事前学修（オンデマンド SC）：

指定の教材に沿ってオンデマンド授業を自宅受講。やんばる地域の自然環境（生物多様性、世界自然遺産登録候補地）、人々の伝統的な生業と暮らし方、米軍基地と人々の生活および海の環境への影響などについて基礎知識を得て、自分なりの問題意識を持つ。

現地学修（対面 SC）：

1 日目：（午前）那覇空港集合、名護市に移動。

（午後）東海岸・大浦湾でグラスボート船上から解説を受けながら湾内のサンゴ群集観察。同じく湾に面した瀬嵩浜にて「貝と言葉のミュージアム」スタッフの案内と解説により、打ち上げ貝の収集と観察を行う。時間により辺野古基地建設に反対する人々のテント村に立ち寄る。やんばるの学びの森（国頭村・予定）へ移動し宿泊。

2 日目：（午前）やんばるの森を横断し西海岸に移動し、県立辺土名高校を訪問し、サイエンス部との合同フィールドスタディを行う。同部の活動紹介、生き物博物館見学、部員の案内のもとで周辺のフィールドでチョウの観察などを行う。

（午後）地元・大宜味村の集落を訪れ、集落の人から自然とともにある暮らし方について話を聞き、集落内歩きを実施。やんばるの学びの森に戻り、希望者はナイトハイクに参加する。

3 日目：（午前）名護市東海岸へ移動。大浦わんさかパークにて、やんばる世界遺産登録の経過や現状と課題、やんばる地域における基地問題について講義を聞きディスカッションを行う。

（午後）那覇市へ移動し那覇空港で解散。

*以上のプログラムは諸事情により変更の可能性がある。

事後学修（Web ライブ SC）：

事前学修から現地学修を通して学んだことや感じたこと、問題意識について全員でディスカッションし、省察と科目修得試験を行う。

教科書

なし

参考文献

事前学修の前に資料を配布する

学生に対する評価

スクーリング評価（60%）、科目修得試験（40%、事後学修時に実施）を総合して評価